



島根大学学術情報リポジトリ  
S W A N  
Shimane University Web Archives of kNoledge

Title

心因性発作に半夏厚朴湯が著効した1例

Author(s)

山下智子、三浦章子、松田泰行、三木啓之、金山三紗子、田中一平、  
長濱道治、岡崎四方、林田麻衣子、和氣 玲、橋岡禎征、宮岡 剛、  
堀口 淳

Journal

『漢方と診療』（Kampo Practice Journal）24巻6号

Published

2016

URL

<https://www.kampo-s.jp/>

※医療関係者向けサイト

この論文はプレプリント（初稿）であり、出版社版ではありません。

引用の際には出版社版をご確認のうえご利用ください。

「症例アブストラクト」

## 心因性発作に半夏厚朴湯が著効した1例

山下智子、三浦章子、松田泰行、三木啓之、金山三紗子、田中一平、長濱道治、岡崎四方、林田麻衣子、和氣 玲、橋岡禎征、宮岡 剛、堀口 淳

島根大学医学部精神医学講座

〒693-8501 島根県出雲市塩冶町 89-1

TEL: 0853-20-2262

FAX: 0853-20-2260

E-mail: [satoko-y@med.shimane-u.ac.jp](mailto:satoko-y@med.shimane-u.ac.jp)

症例：41歳、男性

主訴：身体がねじれて痛い、倒れてしまう

現病歴：35歳頃より身体のしびれ、勝手に腕が動いて痛いなどといった症状が出現し、整形外科・神経内科を受診したが問題はなく、病院を転々としていた。徐々に症状は増悪し、1日に何度も倒れる、身体がねじれて痛いなどを訴え、部屋に閉じこもるようになった。X年7月10日当科初診し、発作頻回のためクロナゼパム3mg/日に加療開始し、てんかんなどの鑑別の目的で、7月16日に当科入院した。

入院後も身体がねじれる、倒れるなどの発作が頻発した。発作に対しジアゼパム5mgを頓服として使用したが症状は不変で、脳波、頭部MRI、症状観察などを施行したが、異常突発波の所見はなく、またスタッフや家族が立ち去ろうとすると不安が強くなり発作が起きるなどといったことから心因性発作と判断した。本人と家族に検査結果及び診断について説明し、同年8月1日に退院し外来通院とした。外来でも発作は頻回であり、ジアゼパムの頓服回数も徐々に増加し、薬が足りなくなると頻回に救急外来を受診するようになった。所見：舌は膨大し、歯切痕あり。舌苔(+)。

治療経過：本人より「発作が起こりそうでいつも不安」といった予期不安の訴えが著明であったため、不安に対し半夏厚朴湯7.5g/日を追加した。すると内服1週間後より「発作が減って頓服も使用せずにいけるようになってきた」と嬉しそうに語った。以後頓服は必要なくなり、内服2週間後には「気持ちが楽になって発作はない」とのことでありクロナゼパムも漸減した。その後1年以上経過しているが、大きな発作もなく、趣味の自転車を楽しむなど外出頻度も増加している。

考察：本症例は、心因性発作に半夏厚朴湯が著効した1例である。心因性発作は一般に西洋薬での治療は難渋することが多いと言われる。心因性発作の背景にある不安感に対し代表的な理気剤である半夏厚朴湯を使用したところ不安感の減少に伴い心因性発作が著明に減少した。今後も症例を重ねて検討したい。